

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3270101003		
法人名	NPO(特定非営利活動)法人まごころサービス松江センター		
事業所名	グループホームまごころの家・こしばら		
所在地	島根県松江市古志原5-13-69		
自己評価作成日	平成29年10月20日	評価結果市町村受理日	平成30年1月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 index.php?action_kouhyou_detail_2017_022_kani=true&JigyosyoCd

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPOLまね介護ネット		
所在地	島根県松江市白濁本町43番地		
訪問調査日	平成29年11月21日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「その人らしさと共に生きる」「今日が一番幸せな日」を理念に、利用者様一人一人がその人らしく生き活きと輝ける様に支援している。三度の食事は季節の食材を取り入れ、職員が手作りにしている。ご近所を散歩したり、お茶を飲みドライブに行ったり、美味しい物を食べて毎日笑って楽しく過ごし、たとえその日が最期でも今日が一番幸せだったと利用者様はもちろん、職員も思える様に日々支援している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地域との繋がりが拡がり事業所の理解者や応援者が増え、校区外の公民館から「認知症」講演の依頼があり参加者から相談を受け助言をし地域貢献に取り組んでいる。法人合同で開催した第2回笑顔写真展では、日頃の様子を動画や笑顔写真で紹介し、自宅での暮らしの写真も展示し家族や来場者から「とても良かった」と感想を貰っている。外出支援に力を入れ地域の名所や外食、自宅の桜を見る等日常的に出かけ五感を大切にしたり取り組みをしている。花餅や瓜の粕漬け、吊るし柿、笹巻等利用者に教わりながら一緒に作り、利用者が生きがいを持って生活出来る様に支援している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念の基、事業所独自の理念を作り、職員会議等で「理念に基づいたケアを行う」という視点で、その都度話し合い、ケアに生かしている。	理念に基づき利用者に「今日が一番幸せな日」と思って貰えるように、職員会議や日々のミーティングでケアの振り返りを行い理念の実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域住民の一員として自治会に加入し、地域の溝掃除や草取り等に参加している。夏には、地域のカラオケ大会に毎年参加し、行事ごとにボランティアの方に来所して頂いている。	神社の納涼祭への出演や公民館の文化祭に出展したり、事業所の行事にボランティアや近所の人々の来訪があり交流が深まっている。芋掘りの声をかけて貰う等利用者が地域と繋がりがりながら暮らせる様に支援している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通して、ホームでの認知症ケアの取り組みや看取りの報告をし、意見交換や情報交換を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の方2名に推進委員になって頂き、2か月に1回の会議に参加して頂いている。ホームでの取り組みを報告する中で貴重なご意見ご理解を頂き、職員間で共有しケアに活かしている。	活動や状況等を報告し、意見や助言を受けて運営に反映させている。委員が「大茶会」に参加出来なかった利用者に茶道具一式持参し茶席を設ける等、委員は協力者として利用者の生活を支えている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	主に運営推進会議で報告や相談をさせてもらっている。問題が生じた時等は市の介護保険課に相談させてもらっている。	運営推進会議で事業所の実情や取り組みを伝え協力関係を築いて取り組んでいる。困難事例等相談している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員会議にて外部研修報告や内部研修を行い、その都度話し合いを行っている。日中は玄関の施錠をせず、外出希望を訴えられる利用者様の対応として、思いを抑制せずに受け入れて外出支援を行っている。	職員会議で話し合い理解を深め身体拘束をしないケアに取り組んでいる。転倒予防の為にベッド柵や鈴を使用する場合は、家族に状況を説明し同意を得ている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員会議にて、外部研修報告や内部研修を行い、その都度話し合いを行っている。お一人お一人の人格を尊重し、常に敬意を持った言葉掛けや態度を職員全員が意思統一し支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	スタッフミーティングや職員会議内の研修テーマとして、制度の内容について確認、理解に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所前から、ご本人とご家族にお会いする機会をできるだけ多く持つ様にし、ホームにも可能な限り来て頂く機会を持っている。また、契約に関しても、話し合いを多く持ち、納得して頂ける様に努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご利用者様の言動から、その思いを察し、ご利用者様本位の運営を心掛けている。また、ご家族の面会やカンファレンス時には意見・要望をお聞きし、運営に反映させている。ご家族にもホームの行事に参加して頂いている。	「通信」やライン、面会時に日頃の様子を伝え家族から要望等聞く様に努めている。運営推進会議や誕生日会、遠足等行事に参加して貰っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃から職員が気軽に気付きや意見、提案が言えるようにコミュニケーションを図っている。提案された意見は管理者会議に図り、可能な限り反映させるよう努めている。	ミーティングでゆっくり意見や要望を聞く事に努めている。管理者は新人職員が安心感や自信を持って仕事出来る様に不安に寄り添い見守っている。職員の得意分野を活かし楽しく働きやすい職場作りに努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者を通して報告を受け、常時話し合いを行っている。毎月管理者会議を行い、職場改善に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者を通して都度報告を受けたり、毎月職員会議に参加している。また、隔週で昼食を一緒に食べる事で、職員一人一人のケアの実際と力量を把握している。外部研修にも接触的に参加を促している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修に積極的に参加したり、施設見学や実習を積極的に受け入れ、気付きを頂いたり、情報交換を行い、サービスの向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前よりご本人の意向を伺い、要望に沿ったケアが行えるようできるだけ話し合いの機会を持つ様に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	来所時や定期的なカンファレンスの際、都度ご本人の様子を報告し、要望を伺っている。手紙での報告や行事等にお誘いし、信頼関係の構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人の様子を観させて頂き、ご家族に相談、要望を伺い、主治医、訪問看護、福祉用具事業者等に相談し、適切なサービスを導入している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事や手作業等、一緒に出来ることを探り、声掛け等によりご本人の意向を確認し、活動に参加して頂いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員はご本人の様子を報告するとともに、行事や外出等の機会があればお誘いしたり、相談をして頂けるような雰囲気作りに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	生活歴の把握をし、ご本人、ご家族にも意向を伺い、自宅への外出や親しい方とお会いできるよう計画を立てている。	一人ひとりの生活歴の把握や家族に昔の写真を持参して貰い話題にする等馴染みの関係が途切れない様に支援している。「生まれ育った所の桜を見たい」等の思いに家族の協力を得て支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の状態、関係性の把握に努め、時には職員が間に入り孤立されないように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された方のご家族にもいつでもホームに寄って頂ける様に電話等で声を掛けさせて頂いたり、行事のお誘いなどをし、馴染みの関係が継続できるように努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の意向を伺うとともに、日頃の観察によりご本人に満足して頂けるサービスを提供できるよう検討している。	生活歴や日頃の会話、表情から思いや意向の把握に努め、出来る事やしたい事を役割として活躍の場を作っている。クラシックを聞く習慣の人は居室で聞ける様に支援する等本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴を把握し、会話の中から意向を伺い、これまでの生活にできるだけ近づけるよう環境の調整を行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々観察を行い、心身状態の変化に気づけるよう努めている。記録をこまめに行い、情報の共有を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族に意向を伺うとともに、チーム内で職員との意見交換を行っている。検討結果をプランに反映させている。	利用者、家族、関係者と話し合い現状に即した介護計画を作成している。利用者がより良く暮らすために日々ミーティングや職員会議でケアを振り返り見直しに繋げている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録、日誌、連絡帳等の記録を活用し、口頭でも情報の伝達を行っている。変化があれば計画の見直しに繋げている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人の意向に合わせて外出支援、買い物支援、また、ご家族と一緒に誕生日等が行えるよう計画をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民謡やダンス、銭太鼓等のボランティアの方の協力を得て、楽しい時間を持ち、地域の公民館活動にも参加させて頂きながら、安全で豊かな暮らしを楽しむことができるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の協力医に月1回の往診をして頂き、緊急時にはすぐに連絡と報告を行い、指示を得ている。その他では皮膚科、耳鼻科、整形外科、歯科等必要に応じて往診、通院している。	利用者、家族と話し合い、希望する医師の訪問診療や受診を支援している。専門外来受診時は、日頃の様子を伝え適切な医療が受けられる様に連携している。協力医に夜間や緊急時、看取りの協力を得ている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションと契約しており、週1回の訪問を依頼している。一人一人の状況を報告し、不安な事や異常について詳細に報告、指示を得ている。24時間体制で緊急時も連携が取れている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には可能な限り頻りに面会に行き、食事介助を行ったり、最新の情報を得ている。ご本人にとってもなじみの顔が見えることにより安心感を持ってもらう。早期に退院ができるように病院内での支援を務めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りの契約を行い、指針を策定してご家族と話し合いの時間を持ち、双方のできることの確認、方針の確認を行っている。必要性が生じた場合はご家族、協力医、訪問看護等と共に話し合い、方針を共有している。	家族や関係者と話し合いを重ね事業所の方針を伝え対応している。「看取りケア」のマニュアルを作成し、職員全員で勉強会を行ない情報を共有しチームで取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	講習会に自主参加しており、資格を取得している。また、外部講師を招き、AED等の応急手当の訓練を定期的に行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署指導のもと、消防訓練、避難訓練を年1回行っている。また、内部での訓練も年1回行っている。	定期的に消火や避難訓練を実施している。日頃から地震対策としてクローゼットをワイヤーで固定する等意識して取り組んでいる。地域消防団や自治会との協力体制を築いている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の人格を尊重し、常に敬意を持った言葉遣いや態度を意識しながら対応している。	生活歴を把握して、目線を合わせ「その人の瞳に入るケア」を目指し、人格を尊重した言葉かけや好む話しを心がけ対応している。食事や入浴の時間等利用者のペースで生活ができる様に柔軟に対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者様の思いや希望を汲み取る事が出来るよう、日常的に把握できるような声掛けや関わりを心掛け、表出された気持ちを優先している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な流れはあるものの、それにとらわれずその日のご利用者様の状況を把握し、臨機応変に取り入れ、穏やかな気持ちで過ごして頂ける様に心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日の更衣がいつも一緒にならないように着衣に配慮する。毎朝お化粧をして頂き、生き生きとした表情で過ごして頂いている。2ヶ月に1回訪問美容師に来て頂き、ご本人様に合ったヘアスタイルをお願いしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	楽しんで食事して頂ける様に季節の食材を取り入れている。また、飲み物、フルーツ等の種類を増やしたり、職員と会話をしながら食事を楽しんで頂ける様に努めている。	盛り付け等利用者の力が活かせる場面を作り支援している。職員が釣ってきた大鯛をさばく所を見たり、行事に合わせて祝い膳やバーベキューを楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	夏場の熱中症対策には特に力を入れてこまめな水分補給に努めている。また、水分摂取量の少ない方は摂取量の記録を取り、職員の意識付けを行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケア、義歯磨き、夜間は義歯洗浄剤に漬ける。口腔内に不具合があると思われる場合には早めに歯科医に相談し、必要に応じて往診、受診している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	見守りが必要な方は、その方の様子や時間を見ながらトイレ誘導を行い、記録している。全介助の方も不衛生にならないように、時間を見てパットの交換を行っている。	一人ひとりの排泄の間隔に合わせ声がけや見守りを行ないトイレでの排泄支援をしている。立位や移乗が一人では困難な人も利用者の気持ちを尊重し自立にむけた支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝乳製品を召し上がって頂いたり、食物繊維が多い食材やバランスの良い食事を心掛けています。一人一人の様子を把握し、便秘にならないように薬で排便コントロールを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2回を目安にご本人の希望とその時の状況によって入浴して頂いている。脱衣所、浴室の温度管理には十分気をつけている。	入浴に気が進まない人には声がけの工夫や入浴剤、足浴等の対応をしている。重度の人はリクライニングシャワーキャリーで角度を調節し体の負担を少なくするように工夫して支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の体調を観察しながら日中の活動を支援している。居室内の温度管理やシーツをこまめに洗濯し、気持ちよく休んで頂ける様にしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別に薬剤情報をファイルし、職員がいつでも見られる様にしている。ご利用者様の状態を常に観察して、状態の変化を見逃さないように職員全員で情報を共有し対応している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一般的な家事活動を中心に、個々の生活歴に合わせた支援や、歌を歌ったり、体操を楽しんで頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その日の状況やご利用者様の気分に合わせて、ドライブに行ったり、散歩に出掛ける等の外出支援を行っている。	散歩や外食、地域の名所等利用者の希望や状況を見て個別支援に努めている。遠足に家族や運営推進委員、関係者の協力を得ながら出かけられるように支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族よりお金をお預かりし、事業所で管理している。個人で財布を管理しているご利用者様もいる。また、外出時には欲しい物をご自分で購入して頂ける様に支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の希望があれば、いつでも電話をかけてもらったり、電話での会話が難しい方には職員が間に入って対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の行事の飾り付けやご利用者様の作品、写真を飾って安らぎと楽しみのある雰囲気作り心掛けています。また、オープンな台所になっており、どなたでも入って来られるようにしています。	日頃の様子がわかる写真や季節の花を飾っている。音楽を流して会話を楽しみゆったりと心地よく過ごせる様環境の配慮をしている。天気に合わせてテラスで花を見たりお茶を飲み外気に触れている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	その時々で、テーブルを動かし、お一人の空間を作ったりご利用者様同士やご利用者様と職員の間で会話を楽しんでいただける空間作りに努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	クローゼット以外はお自分のタンスを置いたり、写真やご本人の作品、お誕生日等のプレゼントを飾っている。	利用者や家族と話し合い壁画等その人に合わせて居室作りをしている。写真や家族の作品を飾ったり筆筒、机、椅子が置いてある。身体状況に合わせてベッドの下にマットを敷き安全に過ごせる様にしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	洗面所等、ご自分の物がすぐに分かるように名前を書いておいてある。必要な個所に手すりを付けて、安全な歩行が保てるように工夫している。		